

今朝は今年のイースター礼拝です。そこでイエスが埋葬された墓に墓参に行ったマグダラのマリアとペトロとヨハネの3人が、イエスのご遺体が無くなっているのを見た時の三人三様の反応と信仰の姿を見たい。

I. マグダラのマリアの場合

彼女は三人の中で最初に墓に来た。当時「マリア」という名の女性は多くいたので、区別するため、出身地のガリラヤ湖西岸の小さな漁村の地名、「マグダラ」を付けて呼んでいる。彼女は「七つの悪霊を追い出していただいた」(ルカ8:2)ので、生涯イエスに仕える者となった。

さて、彼女が墓に来て時、墓の入口が開き、内部にはイエスの遺体がないのを見て驚いて、「走って行って」(2節) 男の弟子たちに知らせた。

それを聞いてペトロと「もう一人の弟子」(実はヨハネ)の「二人は一緒に走った」(4節 a)とある。だからここに登場する三人とも走っている。ところがヨハネは若いので「ペトロより速く走って、先に墓に着いた」(4節 b)のであった。

II. シモン・ペトロの場合

ペトロよりも早く走って、先に墓に着いた若いヨハネであったが、墓の中には入らなかった。それは臆病の所為ではなく、彼は「長幼の序」を弁えていて、年長者のペトロに墓の中への一番乗りの名誉を与えようと思ったのかも知れない。

それはそうとして、息せき切って墓に着いたペトロは、短兵急な彼の性格其のままに、つかつかと墓の中に入った。もうその頃には、朝の光も墓の中に届いていて墓の中の様子もはっきりと見えていたと思われます。

彼はイエスの遺体がないことを確認はしたが、まだこの時点ではイエスが復活されたとは思ってはいなかった。

III. イエスが愛しておられたもう一人の弟子(ヨハネ)の場合

彼は墓の中に残されていた「亜麻布」に注目し、「信じた」(8節)。実はユダヤ教当局者は、イエスの復活を否定するために、イエスの遺体は盗まれたとの偽情報を喧伝していた(マタイ28:13)。

もしそうなら、亜麻布を遺体から抜き取るという面倒なことをせず、そのまま運んだ筈である。しかし、亜麻布は遺体が置かれていた場所にあった。しかも、それは「くちやくちやく」に置かれていたのではなく、体の部分と頭の部分とに分かれ、「丸めてあった」(7節)のである。すなわち、体と頭の形骸の丸みが亜麻布に残っていたということである。

ヨハネはここにイエスの復活の証拠とメッセージを読み取ったと思われる。その亜麻布は蟬の抜け殻のようであったから。

ここに復活のメッセージがある。復活によってイエスの体は、「自然の命の体」から「霊の体」に変わったのである(I コリント15:46)。これは私たちの復活の希望でもある。